

○7 番（大野一行君）

7 番、大野です。3 点ほど質問いたします。

まず第 1 点、沖之島の架橋について伺います。

第 1、当初に示された事業費の国の補助金と土庄町単独の負担金について伺います。

○議長（濱野良一君）

建設課長 森田哲也君。

○建設課長（森田哲也君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

令和 3 年 2 月の総務建設委員会にて示した総事業費は約 17 億 1700 万円でありました。そのうち、国費が 3 分の 2 で約 11 億 3000 万円、残り 5 億 8700 万円は町費です。町費のうち、約 4 億 5000 万円が起債充当分となっています。以上です。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

続きまして、物価高騰による総予算の変動を伺います。

○議長（濱野良一君）

森田課長。

○建設課長（森田哲也君）

それでは、お答えします。

当初、約 17 億 1700 万円と説明し、令和 6 年 2 月の委員会で、約 22 億 500 万円となり、約 4 億 8800 万円の増加となる旨、説明いたしました。

増額分の内訳は、国費が約 3 億 1500 万円、残り 1 億 7300 万円が町費で、内、約 1 億 2800 万円が起債充当分となっております。以上です。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

完成時における総事業費の予測が行われているなら、そのことについてもお伺いいたします。

○議長（濱野良一君）

森田課長。

○建設課長（森田哲也君）

質問にお答えします。

現段階での総事業費は、委員会にて報告してあります約 22 億 500 万円と予測しています。ただ、来年以降も人件費、工事費、資材の高騰が予想されますので、

事業費が膨らむおそれがありますが、精査して工事を進めていきたいと思えます。以上です。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

当初の完成予定年度が 7 年度から 8 年度に変更になりましたが、今後の進捗見込みについても伺います。

○議長（濱野良一君）

森田課長。

○建設課長（森田哲也君）

ご質問にお答えします。

今後の工事の進捗見込みといたしましては、現在橋梁上部工を発注しております。今年度中には、沖之島側の取付道路の一部を発注予定としています。来年度以降に、残りの取付道路部分と橋梁の安全施設等を発注予定としています。今のところ、令和 8 年度末までの完成を見込んでおります。以上です。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

近年、東南海地震など日本全国でさまざまな地震や震災が起きてます。とくに、この四国地方では、東南海地震と言われる M8 とされるクラスが起きるだろうと推測されてるわけです。そういう中で、この沖之島の架橋について、それに耐えうる設計になっているのかどうか伺います。

○議長（濱野良一君）

森田課長。

○建設課長（森田哲也君）

ご質問にお答えします。

沖之島架橋は、M8 クラスの地震動に対しても耐えうる設計となっております。また、耐震性を計算した資料もございます。以上です。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

実は、素人ながら私、ときどき現場を見ている。さまざまな人との話もしながらですね、見る限り、その波消しブロックのような感じでもあるわけですが、本当にこれで耐震性があるのかなど。とくに近年は、揺れることよりも土地が移動するということが非常に重要視されておまして、その辺のところも、もし分かれば具体的な対策ができているのか、あるいはその計算ができておるのか伺

いたいと思います。

○議長（濱野良一君）

森田課長。

○建設課長（森田哲也君）

大野議員の再質問にお答えします。

地震時においても、消波ブロック等も地震動に耐えうる設計となっております。

また、滑動や転倒についても計算しており、安全率は通常 1.0 以上の数値があれば安全であるところ、沖之島の安全率は 1.7 となっています。資料もございません。以上です。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

資料があるということですので、後ほどいただきたいと思います。

私が、なぜこの質問しているかと申し上げますと、委員会でもさまざま質問してまいりました。当初予算、単純に申し上げますと 16 億。現在の話では 22 億の予算になってるわけです。得てして公共事業は、土庄町に限らず、膨らんでいきます。当初予算より膨らみます。そういう傾向があります。今回は、さまざまな要因で物価高という稀に見る問題が起きたから致し方ないとは思いますが、やはり大事な税金ですから警鐘を鳴らしておきたいと、この場で質問しております。

この点について、町長、何かお考えがありましたら一言ご答弁をお願いしたいと思います。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

建設工事においては、沖之島架橋に限らず工事費が増加することがままございます。現場の状況等により、当初、予期していなかった追加工事が発生することなどがその主な要因となりますが、必要な工事の規模や範囲の精査、より安価な工法の検討などに十分留意し、真に必要な工事費の増加にとどまるよう努めてまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

今の町長のご答弁をいただきまして、少し安堵いたしております。がしかしな

がら、やはり税金を多くの税金使うわけですから、各担当者におかれましても慎重に進めていただきたい、という願いをしまして、次の質問に移ります。

2 点目です。小中学校の給食費の無償化について伺います。

第 1 点、土庄町の現在の学校給食費の予算と保護者負担の現状を伺います。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 堀康晴君。

○教育総務課長（堀康晴君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

給食費の当初予算としまして、4882 万 5000 円を計上しておりましたが、物価上昇による食材費の高騰に伴いまして、本議会では 662 万 2000 円の補正予算を提案させていただいております。合計額としまして、5544 万 7000 円の支出見込みでございます。

一方の収入につきましては、本年 9 月 1 日から、給食費を一食当たり 30 円の値上げをさせていただきました。1 食あたりの金額は、小学生が 303 円、中学生が 328 円にしましたが、児童・生徒の値上げ部分につきまして、町が補助をすることにより、保護者の負担額は従前と変わらず、小学生が 273 円、中学生が 298 円に据え置いております。

予算額 5544 万 7000 円の内訳としましては、保護者等からいただく給食費が 4082 万 1000 円。県の第 3 子以降学校給食費無償化事業に係る補助金と健やか基金充当分が 762 万 7000 円であり、差引 699 万 9000 円が町の負担となります。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

次に、香川県内の市町の学校給食費の現状、状況を伺います。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 堀康晴君。

○教育総務課長（堀康晴君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

現在の各市町の状況につきまして、説明をさせていただきます。小中学校で無償化を実施しておりますのは、丸亀市、小豆島町、それから本年 9 月から実施の宇多津町となります。また、坂出市は小学校のみ無償化を実施しており、三木町では第 2 子には給食費の半額補助を実施しております。ほかの市町につきましては、第 3 子以降についてのみ無償化を実施している状況でございます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

現在、第 3 子の学校給食費無償化制度となっていると思いますが、その予算と問題点を伺います。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

第 3 子以降学校給食費無償化事業補助金につきましては、無償化に係る費用の 2 分の 1 が県から補助されます。残りの 2 分の 1 は、県が県内各市町に配分した「第 3 期健やか子ども基金」から充当してもよいことになっております。

土庄町にとって必要な見込み額は、先ほど申し上げましたとおり 762 万 7000 円となっており、その 2 分の 1 の 381 万 3000 円は補助金が交付されるものの、残りは健やか基金から充当するか、町の一般財源から持ち出すこととなります。

第 3 期健やか子ども基金は、香川県が、子育て等における市町のニーズに応じ、創意工夫を凝らした少子化対策、母子保健および子育て支援事業を計画的に実施できるよう、平成 26 年度から実施しているものですが、第 3 子以降無償化事業が開始されるにあたり増額されてはならず、基金の恒久性についても保証されておりませんので、実質は町の負担となっているところに問題があると感じております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

小中学校の学校給食無償化の実現で、子育て年齢である若年層の移住につながることでなるのではないかと私はと思いますが、この点、企画財政課長、お願いします。

○議長（濱野良一君）

企画財政課長 佐伯浩二君。

○企画財政課長（佐伯浩二君）

それでは、大野議員のご質問にお答えいたします。

現在、町では、移住・定住施策として、SNS を使った情報発信や相談事業の充実、きめ細かい受け入れ支援などとともに、移住定住促進賃貸住宅家賃等補助金や若者住宅取得支援事業補助金、U ターン者同居リフォーム支援事業補助金などの各種補助事業も展開しております。

これらの取り組みが功を奏し、令和 5 年度の県外からの移住者数は、高松市に次いで県内で 2 番目となるなど、嬉しい効果にもつながっております。移住

者に伺ってみますと、「島の魅力にひかれた」とか「島の自然環境の中で子育てをしたい」あるいは「親身になって相談に応じてくれた」などの声が多く、必ずしも経済的支援に重きを置いて移住を決めているのではない実態が見て取れます。

従いまして、自然環境はもとより、人間関係を含めた社会・生活環境など、土庄町の総合的な魅力を高めていくことが移住の決め手になると思っております。給食費の無償化だけにとらわれず、こども園や小中学校の環境改善、放課後児童事業の充実などの子育て支援にも取り組んでいるところです。

また、給食費の無償化を実施する場合、第3子以降の無償化に係る県補助金等を考慮しましても、町の負担額は年間約5000万円程度と見込まれまして、その財源については、補助制度等がないことから全額一般財源となります。

給食費の無償化については、現在、文部科学省および、こども家庭庁において検討されているところでもありまして、財政負担も大きいことから財政担当課といたしましては、国の動向も注視しながら慎重に検討すべきであると考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7番（大野一行君）

各課長の答弁いただきました。資料もいただきました。その中で、最高責任者であられる岡野町長の意見を伺います。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

先日、土庄町PTA連絡協議会および豊島地区PTA連絡協議会から予算陳情がありました。内容は、町講師の継続配置および確保、GIGAスクール構想の実現に伴う設備や機器の充実、公園を含めた子どもの遊び場などの整備、学校施設の修繕など、20項目以上の要望が寄せられましたが、給食費の無償化についての要望はありませんでした。

私自身、給食費の無償化は多くの家庭が望んでいるものと考えておりましたので、後日、役員の方にその理由を伺ったところ、「当然、有償か無償かと問われれば無償のほうが良いのは決まっています。それよりも町として考えていただきたいのは、優先順位の高いものから要望を出している」とのことでした。

また、現在、限られた財源の中でメニューを考え、調理に携わっている方々には感謝していますが、もし可能であれば、地域の食材を使用した特色のある給食の日数を増やしたり、子どもたちが望むメニューについてアンケートを実施し、

年に数回でも取り入れていただきたいとの意見も伺っております。

給食費については、完全無償化は難しい状況ではありますが、食材費の高騰分や赤字部分の負担をできる限り継続し、質・量ともに子どもたちの健全な発達に資する美味しい給食を今後も提供していきたいと考えております。

なお、県や国には引き続きさまざまなルートを通じて無償化への要望を行っており、議員の皆さまにもご協力いただきながら、国による一律の給食費無償化を実現できるよう努力してまいります。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

その話については、私も理解はしておりますが、なぜこの質問するかと申し上げますと、たぶんご存知だと思いますが、以前にも私質問させていただきましたが、岡山県の奈義町ですね、ここでは、園、小中学校の無償化、給食無償化されてます。

ただ、企画課長おっしゃったように、この無償化だけで人が増える、子どもが増えるんじゃないんです。一つの要素ではあります。これ間違いないんです。お言葉を返すようですが、個々に保護者に聞きますと、当然意見があります。当たり前です。余裕のある方は、「いや、いいよ」と、「ほかのことお願いします」と。しかしながら、私の知ってる範囲では、また日本の政治は少なくとも、ハンディのある人たち、あるいはちょっと困ってる人たちを救うというか、その人たちの目線に立つことも民主主義国家の役割であります。そういう意味では、この奈義町、総合的にさまざまな施策をして、つい最近も元岸田総理もわざわざ行ってます。トップが、日本のトップが行くぐらいですから、やはり、非常に注目されてる、学ぶべきことであろうというふうに私思います。そして、本来はこういう本当に人を増やして子どもを増やすのであれば、予算の差し替えぐらいしないと無理なんです。

奈義町ではそうしてます。ただ、給食費無償化してる町もあるわけですから、よそがしてるからしましょうというわけではありません。実際には隣の小豆島町も無償化されてはおります。先ほど、課長の話の資料によりますと、町によれば無償化されています。

先ほど申しましたように、ただ無償化だけではなくて、人を増やす、子どもを増やすということになれば、本格的に本気に、行政が全てを見直しながら、総合的に行っていかなければ実現をしないと思っています。そのことをぜひ、釈迦に説法かもしれませんが、肝に銘じていただきたいと思います。

時間の関係で、次の質問に移ります。

持続可能な観光地の認証について問います。どうもこれは、オランダの国際的

認証団体が認証されたようですが、この認証に伴う具体的内容とメリット、デメリットを伺います。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

ご承知のとおり、持続可能な観光の国際認証を行う団体「グリーンデスティネーションズ」が実施する、2024 年「グリーンデスティネーションズアワード」において、小豆島がシルバーアワードを受賞しました。

この制度は、最も影響力のある持続可能な観光の国際表彰制度で、第三者認証機関からのお墨付きを意味し、持続可能な観光地としての国際的な注目が高まることが期待されます。

アワードの審査では、具体的に 6 つの主要テーマに沿った 84 項目にもわたる評価基準によって評価され、その達成度合いによってブロンズ、シルバー、ゴールド、プラチナなどの段階的な表彰を受けることができます。

認証取得のメリットとしましては、コロナ禍を経て、「ただ旅行を楽しむ」というのではなく、「訪れる地域にも配慮しよう」と、国際認証の取得地を優先的に選ぶ傾向が、とくに欧米豪の観光客を中心に増えてきているトレンドに、いち早く適合していけるということです。

また、今回の審査では、今回 84 項目中 77 項目の基準をクリア、また一部クリアしており、地域の強みやポテンシャルを把握する機会となった一方、弱みも見えてきております。挑戦する過程で、地域の持つ強みや弱みを把握することで、地域が目指すべき姿や、やるべき施策を明確にでき、そのことで地域を巻き込み、さらなる機運の醸成にもつながるものと考えております。

さらに持続可能な観光を推進する観光庁の補助事業の採択審査において、認証取得が加点要素になることが多くなってきており、補助事業を取りやすくなるといったメリットがあります。

また、昨今の教育旅行や研修等においては、「学び」の要素を取り入れることも多く、持続可能な観光に取り組む地域として国際認証を持つ小豆島は、先んじて「選ばれる地域」となることが考えられます。

デメリットとしましては、項目基準が観光だけでなく全庁的にまたがるため、各セクションとの協力体制が不可欠で、報告書作成などの申請業務に多大な時間と労力を伴うことが挙げられます。また申請には語学力や各セクションの取り組みを理解する必要もあるため、本業務に携わる人材を育成していくことも課題であるといえます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）



大野一行君。

○7 番（大野一行君）

大変わかりやすくご説明をいただきました。ですが、関連ですね、もう 1 点だけ質問申し上げます。

せっかくこの認証いただいたわけですが、実は現在、狭い海峡、最近とくに観光客増えてます。土渕海峡ですね、世界遺産（ギネス）になって登録ですかね、なってます、ずっと最近見えますと、台湾からの観光客多いです。観光バスが 2 台、多いとき 3 台。土日じゃなくって普通の日に来てます。残念ながら、この周期の観光施設、観光時期に、今ご存知だと思うんですが、幕が張られてます。それはそれで修理を、ということでありましょうけれども、少なくともこの周期の一番大事な時期に幕を張ってるっていうのはとっても残念。実は、私直接聞いておりますけれども、日本の観光客から苦情を聞いてます。「やっと来たのに幕やないか」と、幕です。本当に幕です。この点、何かの事情があるんだろうと思いますが、お聞きしたいと思います。なぜ今なのか、はい、お願いします。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

では、大野議員のご質問にお答えいたします。

大野議員のおっしゃるように観光客が多く訪れるこの行楽シーズンに、なぜ土庄町の観光地の一つであります、土渕海峡のアーチに幕がかかって見えないっていうのはもう大野議員、ごもっともな意見だと思います。私もそんなふうに思っております。

ただ、この工事自体がですね、実施主体が香川県であります。ご存知のように仮設の足場を組んでの工事となっていますためにですね、例えば、台風の時期を避けるとか、もし台風来れば仮設の土台を撤去しなきゃいけない、そういう手間もありますし、費用もかかるってこともありますし、また来年瀬戸芸ありますので、それまでにやらなきゃいけないなというふうなこともお聞きしております。私もちょっと聞いたことがありますので。そういった風水害の対応であったり、瀬戸芸に間に合わせたい、そういった状況の中でこういった工期になったのかなというふうに今、お聞きしているところです。この塗装工事につきましては、毎年あるものではなくてですね、何年かに 1 回、5 年ぐらいですかね、ぐらいなので来年はないと思っています。もしですね、次工事がある際、5 年先なのかちょっと分かりませんが、そのときにはですね、ぜひ大野議員さんの今のご意見を頂戴いたして、まず、もちろん安全面ですね、風水害とかの備えはしなきゃいけないけれども、観光のハイシーズンでありますこういった秋の時期とかです

ね、にはできたら避けてほしいなとか、そういった協議をですね、ぜひ県のほうとさせていただきたいというふうに思っております。

貴重なご意見ありがとうございました。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○7 番（大野一行君）

おっしゃられたように県の事業ですし、おそらく 100%、予算については、県の予算でしょう。そういう意味では、ありがたいではあるんですけども、課長おっしゃったように、まず事前に県が土庄町との相談、すべきだろうと私もそう思います。

事情は分かりましたので、今後はそのことがないようにお願いをしたいということで、私の質問を終わります。